

1

解答解説のページへ

実数 a に対して、関数 $f(x)$, $g(x)$ を

$$f(x) = -(a+1)x - 1, \quad g(x) = 2x + \frac{a}{3}$$

とし、 $m(a) = \int_0^1 f(x)g(x)dx$ とする。次の問いに答えよ。

- (1) $m(a) > 0$ を満たす a の値の範囲を求めよ。
- (2) (1) で求めた a の値の範囲において、関数 $h(x) = g(x) - m(a)f(x)$ を考える。このとき、 $\int_0^1 f(x)h(x)dx = 0$ となる a の値を求めよ。

2

解答解説のページへ

xyz 空間において、原点 O を中心とする半径 1 の球面 $S : x^2 + y^2 + z^2 = 1$, および S 上の点 $A(0, 0, 1)$ を考える。 S 上の A と異なる点 $P(x_0, y_0, z_0)$ に対して、2 点 A, P を通る直線と xy 平面の交点を Q とする。次の問いに答えよ。

- (1) $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP}$ (t は実数) とおくと、 \overrightarrow{OQ} を $t, \overrightarrow{OP}, \overrightarrow{OA}$ を用いて表せ。
- (2) \overrightarrow{OQ} の成分表示を x_0, y_0, z_0 を用いて表せ。
- (3) 球面 S と平面 $y = \frac{1}{2}$ の共通部分が表す図形を C とする。点 P が C 上を動くとき、 xy 平面上における点 Q の軌跡を求めよ。

3

解答解説のページへ

 $0 \leq \theta \leq \pi$ の範囲で定義された関数

$$f(\theta) = a \sin \theta \cos \theta + b(\sin \theta - \cos \theta) - 1$$

を考える。ただし、 a, b は正の実数とする。次の問いに答えよ。

- (1) $t = \sin \theta - \cos \theta$ として、 $f(\theta)$ を a, b, t を用いて表せ。また、 t のとりうる値の範囲を求めよ。
- (2) 等式 $f(\theta) = 0$ を満たす θ が存在するような点 (a, b) 全体からなる領域を座標平面上に図示せよ。

1

問題のページへ

$$(1) \quad m(a) = \int_0^1 f(x)g(x)dx = \int_0^1 -\{(a+1)x+1\}\left(2x+\frac{a}{3}\right)dx \text{ より,}$$

$$\begin{aligned} m(a) &= -\int_0^1 \left\{2(a+1)x^2 + \frac{a^2+a+6}{3}x + \frac{a}{3}\right\}dx \\ &= -\frac{2(a+1)}{3} - \frac{a^2+a+6}{6} - \frac{a}{3} = \frac{-a^2-7a-10}{6} \end{aligned}$$

ここで, $m(a) > 0$ より, $a^2 + 7a + 10 < 0$, $(a+2)(a+5) < 0$ となり,
 $-5 < a < -2$

$$(2) \quad h(x) = g(x) - m(a)f(x) \text{ より,}$$

$$\begin{aligned} \int_0^1 f(x)h(x)dx &= \int_0^1 [f(x)g(x) - m(a)\{f(x)\}^2]dx \\ &= m(a) - m(a)\int_0^1 \{f(x)\}^2 dx \end{aligned}$$

さて, $m(a) > 0$ より, $\int_0^1 f(x)h(x)dx = 0$ は, $\int_0^1 \{f(x)\}^2 dx = 1$ と同値であり,

$$\int_0^1 \{f(x)\}^2 dx = \int_0^1 \{(a+1)^2 x^2 + 2(a+1)x + 1\}dx = \frac{(a+1)^2}{3} + (a+1) + 1$$

よって, $\frac{(a+1)^2}{3} + (a+1) + 1 = 1$ から, $a+1 = -3$, 0 となる。

すると, (1)より, $-5 < a < -2$ なので, $a = -4$ である。

[解説]

(2)は(1)と関連し, クリアーに解ける設問になっています。

2

問題のページへ

(1) $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP}$ のとき, $\overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OA} = t(\overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OA})$

$$\overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OP}$$

(2) (1)より, $\overrightarrow{OQ} = (1-t)(0, 0, 1) + t(x_0, y_0, z_0)$

$$= (tx_0, ty_0, 1-t+tz_0)$$

ここで, 点 Q は xy 平面上の点なので, $1-t+tz_0 = 0$

すると, $z_0 \neq 1$ から, $t = \frac{1}{1-z_0}$ となり,

$$\overrightarrow{OQ} = \left(\frac{x_0}{1-z_0}, \frac{y_0}{1-z_0}, 0 \right)$$

(3) $\overrightarrow{OQ} = (x, y, 0)$ とおくと, (2)より, $x = \frac{x_0}{1-z_0} \dots\dots\dots \textcircled{1}$, $y = \frac{y_0}{1-z_0} \dots\dots\dots \textcircled{2}$

条件より, 点 P(x_0, y_0, z_0) は, 球面 $S : x^2 + y^2 + z^2 = 1$ と平面 $y = \frac{1}{2}$ の共通部分である C 上を動くことより,

$$x_0^2 + y_0^2 + z_0^2 = 1 \dots\dots\dots \textcircled{3}, \quad y_0 = \frac{1}{2} \dots\dots\dots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{3}\textcircled{4} \text{より}, \quad x_0^2 + z_0^2 = \frac{3}{4} \dots\dots\dots \textcircled{5}$$

また, $\textcircled{2}\textcircled{4}$ より, $y = \frac{1}{2(1-z_0)}$ となり, $y \neq 0$ から, $1-z_0 = \frac{1}{2y}$,

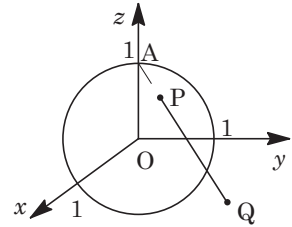
$$z_0 = 1 - \frac{1}{2y} \dots\dots\dots \textcircled{6}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{6} \text{より}, \quad x_0 = \frac{x}{2y} \dots\dots\dots \textcircled{7}$$

$$\textcircled{6}\textcircled{7} \text{を}\textcircled{5} \text{に代入すると}, \quad \left(\frac{x}{2y} \right)^2 + \left(1 - \frac{1}{2y} \right)^2 = \frac{3}{4}$$

$$x^2 + (2y-1)^2 = 3y^2, \quad x^2 + y^2 - 4y + 1 = 0 \dots\dots\dots \textcircled{8}$$

$\textcircled{8}$ は $y \neq 0$ を満たすことより, 点 Q は xy 平面上で円 $x^2 + y^2 - 4y + 1 = 0$ を描く。



[解説]

有名な構図の問題です。誘導がたいへん丁寧です。

3

問題のページへ

(1) $t = \sin \theta - \cos \theta$ とおくと, $t^2 = 1 - 2 \sin \theta \cos \theta$ より, $\sin \theta \cos \theta = \frac{1-t^2}{2}$ となり,

$$f(\theta) = \frac{a(1-t^2)}{2} + bt - 1 = -\frac{a}{2}t^2 + bt + \frac{a}{2} - 1$$

また, $t = \sqrt{2} \sin(\theta - \frac{\pi}{4})$ より, $0 \leq \theta \leq \pi$ において $-\frac{1}{\sqrt{2}} \leq \sin(\theta - \frac{\pi}{4}) \leq 1$ となり,

$$-1 \leq t \leq \sqrt{2}$$

(2) $g(t) = -\frac{a}{2}t^2 + bt + \frac{a}{2} - 1$ とおくとき, $f(\theta) = 0$ を満たす θ が存在する条件は, $g(t) = 0$ が $-1 \leq t \leq \sqrt{2}$ に少なくとも 1 つの実数解をもつ条件に等しい。

ここで, $a > 0, b > 0$ において, $g(t) = -\frac{a}{2}(t - \frac{b}{a})^2 + \frac{b^2}{2a} + \frac{a}{2} - 1$ となり,

$$g(\sqrt{2}) = -\frac{a}{2} + \sqrt{2}b - 1, \quad g(-1) = -b - 1 < 0$$

(i) $0 < \frac{b}{a} \leq \sqrt{2}$ ($0 < b \leq \sqrt{2}a$) のとき

$g(-1) < 0$ より, 求める条件は, $\frac{b^2}{2a} + \frac{a}{2} - 1 \geq 0$ となり,

$$a^2 + b^2 - 2a \geq 0, \quad (a-1)^2 + b^2 \geq 1$$

(ii) $\frac{b}{a} > \sqrt{2}$ ($b > \sqrt{2}a$) のとき

$g(-1) < 0$ より, 求める条件は, $g(\sqrt{2}) = -\frac{a}{2} + \sqrt{2}b - 1 \geq 0$ となり,

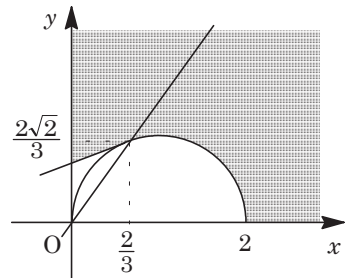
$$\sqrt{2}b \geq \frac{a}{2} + 1, \quad b \geq \frac{\sqrt{2}}{4}a + \frac{\sqrt{2}}{2}$$

(i)(ii)より, 点 (a, b) の全体からなる領域は,

$$0 < y \leq \sqrt{2}x \text{ のとき } (x-1)^2 + y^2 \geq 1$$

$$y > \sqrt{2}x \text{ のとき } y \geq \frac{\sqrt{2}}{4}x + \frac{\sqrt{2}}{2}$$

よって, 図示すると, 右図の網点部となる。ただし, x 軸, y 軸以外の境界は領域に含む。



[解説]

(2)では, $g(-1) < 0$ であることに着目するのがポイントです。